

聖霊降臨節第19週 主日礼拝

2018年9月23日 第一礼拝(午前8:00～) 第二礼拝(午前10:30～) 夕拝(午後7:30～)

前奏	(新聖歌41)		
招きのみことば	『ヨハネの手紙 第一』5章18-21節(新約471頁)	司会者	
※開会の賛美	新聖歌9「力の主を」	—	同
※信仰告白	「使徒信条」(新聖歌p.826)	—	同
代表祈禱	司会者	
感謝の賛美	新聖歌384「主よ御手もて」	—	同
聖書朗読	『ヨブ記』1章1-12節(旧約849頁)	司会者	
黙想	—	同
メッセージ	「『しもべ』ゆえの苦しみ」	近伸之牧師	
※応答の賛美	新聖歌337「愛する主よ わが君よ」	—	同
感謝の献金	(新聖歌58)	—	同
感謝祈禱	森田 澄子姉	
諸案内	(来信・集会案内)	司会者	
諸報告	(来会者紹介・報告・暗唱聖句)	近伸之牧師	
※頌栄の賛美	新聖歌62「天つみ民も」	—	同
※派遣の賛美	新聖歌54「主の祈り」	—	同
※祝福の祈り	近伸之牧師	
※後奏	(新聖歌59-7)		

(※印は、からだの不自由な方以外はご起立お願いします)

第一礼拝	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
司集	会：近伸之牧師 会：小林 洋子姉 小山 千春姉	映像・音響：片山 勝三兄 説教の録画：近伸之牧師	C S 担当：佐藤 繁実兄 ※掃除当番は右表参照

説教メモ

1. 神はヨブを「しもべ」と呼び、これが『ヨブ記』のキーワード。それは使用人ではなく、親友・戦友に近いもの。
2. もし罪があるなら、神は無言で罰を与えるでなく、ことばで語りかけてくださるはず、というのがヨブの確信。
3. ヨブの信仰は、神の子どもとされたキリスト者の確信そのもの。耐え難い試練にもまた確かな意味がある。

先週の暗唱聖句

「あなたがたは夕暮れには肉を食べ、朝にはパンで満ち足りる。こうしてあなたがたは、わたしがあなたがたの神、主であることを知る」
(『出エジプト記』16章12節)

今週の暗唱聖句

「今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中において、わたしの宝となる」
(『出エジプト記』19章5節)

牧師のサイン ()

個人、団体からの来信

2018年9月23日

教団より定期便／亀田キリスト教会より、領収証および行事案内／
「アンテオケ宣教会NEWS」第223号／
第10回チャリティーマラソン大会の案内[10月20日(土)開催]

先週の集会出席者数

9/16(日)	教会学校	幼児男子- 小学男子- 中学男子- 高校男子- 男児計- 成人男性- 幼児女子1 小学女子- 中学女子- 高校女子- 女児計1 成人女性2		
	第一礼拝	男2 女2	※月に一回、書道教室を開催	
	第二礼拝(子ども)	男10 女19 男児1 女児4	9/17(月・祝) 月曜家庭集会 (休会) 9/19(水) 救 禱 会	男6 女6
	夕 拝	男1 女1	9/21(金) シャベリ場タビタ	男- 女3
			9/21(金) 金曜祈禱会	男1 女3

諸集会のご案内

	※月に一回、書道教室を開催。		
月曜家庭集会	9/24(月・振替)	(休会)	
バルナバ祈禱会	9/26(水)午後7:30	教会堂	司会：笹川 清子姉
シャベリ場タビタ	9/27(木)午後1:30	※都合により開催日変更	問合せ先：渡邊 智子姉
金曜祈禱会	9/28(金)夜	教会堂	

9/30(日) 聖霊降臨節第20週

第一礼拝 午前8:00	司会：近伸之牧師 説教	音響：片山 勝三兄 献金：沼田佐代子姉	
教会学校 午前9:00	担当：近伸之牧師		
歓迎礼拝 午前10:30	司会：片山 健司兄 集会：笹川 清子姉	映像・賛美：賛美チーム 説教の録音：山崎 敬典兄 説教の録画：近伸之牧師	感謝祈禱：山岸あけみ姉 ※掃除当番は下表参照
掃除当番順	9/ 2[長谷川睦子姉] 9/23[渡邊 智子姉]	9/ 9[山岸あけみ姉] 9/30[猪爪 和美姉]	9/16[横堀 信子姉]
主日の予定	10月の定例役員会(都合により一週繰り上げて行います。)		
夕拝 午後7:30	司会：近伸之牧師 説教		

報 告

1. 礼拝の感謝と本日の予定
主日礼拝の恵みを感謝します。いただいたみことばを心に刻みつけて新たな一週間を歩みましょう。礼拝後は昼食をいただき、午後2:00より賛美練習を行います。
2. 先週の来会者
9月16日(日)第二礼拝に、長岡福音キリスト教会の星仁一郎兄、星久美子姉が出席されました。感謝します。
- 3.

「すべて重荷を負って苦勞している者は、わたしのもとへ来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」(マタイ11:28)。教会の前の掲示板などに一番多く書かれている聖書の言葉だと思います。それだけこの言葉は、何らかの形で重荷を負いながら苦勞して生きている人々にとって、すばらしい招きの言葉であることを意味しているのだと思います。

私たちに苦勞だと思わせる重荷にはどんなものがあるでしょうか。

第一は生きること自体の重荷です。色々な意味で生きにくくなってきている現代、このことは深刻な問題として、多くの人々が感じていることではないでしょうか。

第二に、生活にまつわる現実上の様々な重荷です。自分が生活するためはもちろんのこと、まわりの人たちへの責任が増えるにつれてその重荷もまた増大します。時には思いがけない苦難に会うことも、それに追い打ちをかけることでしょう。生活の重荷は多種多様で、ずしりと私たちの肩にのしかかっています。

第三に、精神的な、あるいは心の重荷です。現代は、心の病気の時代だと言われています。また人間は誰もがみな、心の奥深くに、後ろめたさや、やましさを秘めて生きています。神への裏切り、人への裏切り、聖書ではそれを罪と言っていますが、その断罪から逃れ得る人は誰もいないはずで、そしてそれが私たち人間の潜在的な心の重荷となっているこ

とに、多くは気がついていないのです。

もう一つ、未来に対する不安から来る重荷があります。生きる上で多少楽しいことや面白いことがあったとしても、「死んだらどうなるのか」という未知の世界への不安は、心の底から拭い去られない重荷となって残ります。

そんな私たち人間に、「わたしのもとに来なさい」とイエス・キリストは言われるのです。イエス・キリストは「あなたがたを休ませてあげよう」と言いました。この「休み」というのは、英語のある訳では「あなたがたをリフレッシュ(元気を回復する)してあげよう」という積極的な意味を持っていることがわかります。キリストのもとに来れば、みんなリフレッシュされて、生き生きと生きる意欲に満ちた歩みを始められるというのです。

なぜでしょうか。

第一に、キリストのもとへ来たら生きる意味を発見することができるからです。

第二に、キリストは私たちの重荷を自ら背負って取り去ってくださるからです。

第三に、このお方は、私たちの重荷を取り除くために死なれただけでなく、死から蘇って、今も生きておられ、この方のフレッシュな命が、いつも私たちをフレッシュにしてくださるからです。



をみなめし遙かに咲きて黄をつくす
松崎鉄之介

女郎花(おみなえし)は秋の七草の一つ。オミナメシとも言う。オミナエシ科の多年草で、山野に自生し、秋、黄色の小花を多数かさ状につける。根を干したものは漢方薬として用いられる。また古くから和歌によまれ、女性をたとえる言葉として使われた。

2018年度教会目標 **「弟子の覚悟をもって」**

「自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません」

(『ルカの福音書』14章27節)



ライフライン

毎週土曜日 朝5:15~5:45 BSNテレビにて放送中
☆24時間テレホン『でんわ世の光』025(272)3592



9/29(土)「こころのよごはん(2)」宮 葉子さん

東京都在住の文筆家・宮葉子さんは、文筆のほかに、読書会、子どもの本のワークショップ、児童文学や聖書をテーマにした講演をするなど、様々な活動を行っています。この8月に出版した『こころのよごはん』は、「今日一日がんばった自分をねぎらい、平安な眠りのために聖書を開いてみる」をコンセプトに、「一日の終わりに読みたい詩篇」を紹介しています。番組では、この本について著者の宮さんにお話を伺います。

Broadcast for Expanding Gospel into Niigata
BEGin。ここから始まるあなたの伝道。

豊栄キリスト教会は、ライフラインを祈りと献金で支援しています。

日本同盟基督教団 新潟山形宣教区
豊栄キリスト教会 (牧師 近 伸之)

〒950-3322 新潟県新潟市北区嘉山3-11-15

TEL: 025-387-4934 FAX: 025-250-0155

ホームページ: <http://www.toyosakakyokai.net>

電子メール: info@toyosakakyokai.net

ブログ: <http://www.toyosakakyokai.sblo.jp>

